

百人一首の魅力

百人一首をご存知ですか。百人一首とは、100人の歌人の和歌を、一人一首ずつ選んでつくった秀歌撰(詞華集)です。

中でも、藤原定家が京都・小倉山の山荘で選んだとされる小倉百人一首(おぐら-ひやくにんいっしゅ)は歌がるたとして広く用いられ、通常、百人一首といえ小倉百人一首を指すまでになったいます。

百人一首に採られた100首には、1番の天智天皇の歌から100番の順徳院の歌まで、各歌に歌番号(和歌番号)が付されています。この歌番号の並び順は、おおむね古い歌人から新しい歌人の順であります。小倉百人一首に選ばれた100名は、男性79名、女性21名。男性の内訳は、天皇7名、親王1名、公卿28名(うち摂政関白4名、征夷大將軍1名)、下級貴族28名、僧侶12名、詳細不明3名[6]。また女性の内訳は、天皇1名、内親王1名、女房17名、公卿の母2名となっています。

歌の内容による内訳では、春が6首、夏が4首、秋が16首、冬が6首、離別が1首、羈旅歌が4首、恋歌が43首、雑(ぞう)歌が19首、雑秋(ざっしゅう)歌が1首です。

100首はいずれも『古今和歌集』『新古今和歌集』などの勅撰和歌集に収載される短歌から選ばれています。

新古今和歌集の中の、「秋の夕暮」という結びの優れた三首の和歌があり、寂蓮の「さびしさはその色としもなかりけり楨立つ山の秋の夕暮」60番、西行の「心なき身にもあはれは知られけり嶋立つ沢の秋の夕暮」61番、定家の「見渡せば花も紅葉もなかりけり浦のとまやの秋の夕暮」62番、の三首のことです。

こんな知識も、「けり」という詠嘆の意味(このことについて初めて気が付いたことだなあという気付きの「けり」)の助詞の使い方も、百人一首に知識ですべてカバーできていくので、できれば生徒の皆さんに共有していただきたいと思っています。

たとえば、中学段階で、百人一首を覚えてくるだけで、高校時代の古典の世界はとても深いところまで到達できることになります。

漢文でも、十八史略や三国志を読んでいるだけで、漢文の世界がとても深くなると考えます。

世界史や日本史や地理、化学や物理や生物や地学についても、中学段階からの興味関心というのはとても大切なものであり、不思議を発見することによって、生涯の課題を見つけることもできます。

私の弟は、土星の輪を自分で作成した天体望遠鏡で見て、生涯の課題を見つけたと思います。

私も、「赤と黒」や、「戦争と平和」によって、生涯の課題を見つけていたのかもしれない。

そんなことを、中学生と話す機会があったらとても良いと考えています。